

幸せのモノサシ講演会「地域で子どもの笑顔を育てるまち」開催報告書

1 日時

平成29年11月15日（水）午後7時から午後8時30分まで

2 場所

長久手市役所西庁舎3階 研修室

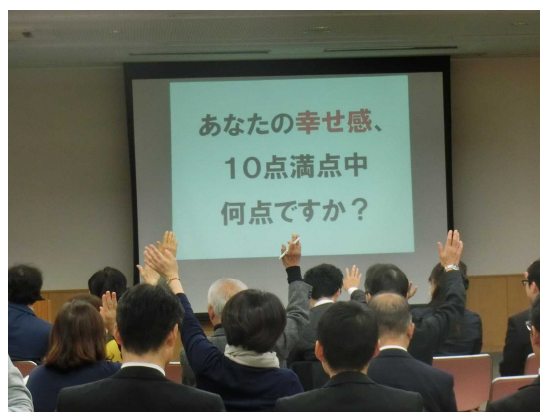
3 参加者

38人

4 幸せのモノサシについての説明

あなたの幸せ感、10点満点中何点ですか？

平成28年12月に、長久手市民5,000人を対象に行った幸せ実感アンケート設問のひとつに、「あなた自身の幸せ感は何点満点中何点ですか」という質問があります。長久手市民2,569人の平均は、7.44点でした。ちなみに内閣府が、平成25年に行った調査では、全国平均は6.69点でした。長久手市民の幸せ感、全国的に見ても高いと言えます。



みんなで共有できる長久手市独自の「幸せのモノサシ」をつくろう

大きく言えば、昔は、物やお金などがある物質的な豊かさ＝「幸せ」だったかもしれません。今は、家族や地域とのつながりといったことも、幸せに影響するということがアンケート結果から分かりました。幸せとを感じるモノサシは、時代とともに変化してきたのではないのでしょうか。

そこで、みんなで共有できる長久手市独自の幸せのモノサシをつくろうと、市民と職員が一緒になって活動を始めました。

ながくて幸せのモノサシとは

長久手を幸せなまちにするための大きな目標を、「地域で子どもの笑顔を育てるまち」と決めました。これは、地域で活躍する大人が子どもの笑顔を育て、それが大人の笑顔に繋がり、ひいてはまちの幸せにつながると考えたからです。

この目標が実現したまちの状態や人を具体的に表したのが、8つの目標です。



さらに、その8つの目標に大きく関わり、現在のまちの様子を表すのが12の行動や環境のデータです。これらは幸せ実感アンケート設問の中からピックアップしたものであり、今後もデータの変化を見ていきます。



これらすべてを幸せのモノサシとして表現し、まとめました。今後はこの幸せのモノサシを使って、まちの状態が目標に向かって進んでいるかを確認しながらまちづくりをしていきます。

ながくて幸せ実感広め隊の活動紹介

(ながくて幸せ実感広め隊メンバー じゅんちゃんより)

幸せ実感広め隊の活動は、3年目を迎えます。私が広め隊に入ったきっかけは、長久手に越してきたのに、まちのことをよく知らず、緑豊かでオシャレなまちなみの長久手をもっと知りたいと思ったからです。



広め隊は、幸せにつながる活動をしている人を取材し、それを広めていくという活動をしてきました。長久手の中には、年齢・性別問わず、幸せにつながる活動をしている方々がたくさんいました。

これらの方々の笑顔が印象的で、私達は、次の世代を担う子ども達が笑顔になることが重要ではないかと考えました。子どもを笑顔にすることが、私達大人の役目ですが、私達大人も、子どもが笑顔になることで笑顔になり、結果として、地域全体の幸せに繋がると考えました。そしてできあがったものが、幸せのモノサシです。

取材を通じて広がってきたつながりを、今後も活かして活動を続けていきたいと思えます。

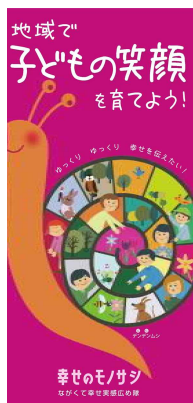
幸せのモノサシリーフレットに込めた想い

(ながくて幸せ実感広め隊メンバー ともこさんより)

幸せのモノサシとはいったい何なのかを、目で見ても分かりやすいものにしたいと思い、ビジュアル化したものがこのリーフレットです。



長久手が幸せなまちになるために、ゆっくりとした足どりで進んでいく様子を表現するため、表紙には、カタツムリを選びました。そして、居心地のよいまちになるように、カタツムリの中には、子ども達やそれらを取りまく環境を表現しました。



(左図)

ともこさんがデザインしたリーフレット

※抜粋

5 講演 講師：草郷孝好氏（愛称：たかさん）

「たか流の勝手な生き方～さいごに、幸せになれたらいいかもなあ～」

原点 種を播く ～種の風土～

私という種が、人間の軸となる原点を作ってくれたのは、父親と母親です。父親からは、どう生きるべきかを教わりました。

- ①あすなる…明日はこうなろうという気持ち
- ②鶏口午後…大きな組織の尻尾なら、小さな組織のリーダーになれ
- ③日本にいらなくてよい、世界に飛び出せ



母親からは、人としてどう振る舞うのかを教わりました。

- ①思いやりの気持ちを体現すること
- ②生き物（いのち）を大切にすること
- ③仕事をすること

暮らしの中からの学びや気づき ～種から芽を出し、葉や幹を伸ばす～

小学校時代、何気ない言葉が相手を傷つけていました。自分ではなんとも思っていない言葉でも、相手の感じ方が違うことに気がついたのです。

大学時代、学生ボランティアをしている時に、人は個人を見るのではなく、どこの組織に属しているかといった側面を見ていることに気がつきました。

その時に、自分（個性）を持つことの重要性を感じました。

社会人になってからも学びはありました。私は大学を卒業し、とある会社に入社したのですが、上司から、「一人勝ちでは長続きしない」という発想を学びました。ビジネス以外にも言えることですが、お互い長続きするためには、「相手と利益を分かち合うということ」が重要なのです。

そして、アメリカの大学院時代の話ですが、アメリカの大学院で指導してくれた先生は、論文や研究もさることながら、とにかく教育が上手でした。この時に、人に接するスタイルや、そのスキルの重要性に気がつきました。

これらに共通するのは、人として成長するには、「日々吸収をし、学びや気づきを得る」ということが重要だということです。

視野や見方の広がり、留学や職場で学んだこと

～森の中の確かな1本の木になろう～

どの国でも幸せの要因として共通しているのは、健康、人間関係、お金の3つです。これは世界一幸福度が高いと言われているブータンでも、そうです。

多国籍の大学や職場を通じて、「個性を生かすには、自分の意思が必要」という考えを学びました。みんなそれぞれ育ってきた環境、背負ってきているものが違うから、誰も簡単には話を聞いてくれませんでした。ここでの経験は、社会の中の個人でありたいと願う、今の私を確実に作ってくれています。

世界の暮らしに学ぶ生き方の知恵 ～幸せな森って？～

マレーシアのバスでの出来事の話をしてします。ドジな私はバスに乗ってからお金（小銭）を持っていないことに気がつくことが何回もありました。バスを降りるときになって、小銭を持っていないとどうしようと困っていると、どこからともなく別のお客さんがやってきて、私の分のバス代をさらっと払ってくれました。これは、お金を持っているのに、払えないという実に恥ずかしい体験でした。



困っている人がいた時には、どう動くのかを考えなければなりません。「尊いことはお金を持っているかにあらず」なのです。

ネパールでは、誰もが信じられない数の守り神を持っていました。ここでいう神とは、友人のことなのですが、私の知り合いで、守り神がとても多い人がいました。

彼の子どもが交通事故にあったとき、彼の友人達の中に、保険に詳しい人、病院に詳しい人がいて、彼らはすぐに行動し、私の友人とその子どもを救いました。ネットワークの重要性を目の当たりにしました。

次に、タイの気にしない精神を紹介します。タイには「マイペンライ」という文化があります。日本語で表すと「大丈夫、大丈夫」という感じです。

使い方が面白く、例えば、お茶をこぼされた時に、こぼされた側が「マイペンライ」と言うのは分かりますよね。でもタイでは、こぼした方も「マイペンライ」と言うのです。最初は私も納得できませんでしたが、価値観が違うということに気づいたのです。社会もところ変われば、ずいぶんと違って、幸せの形も違っているということかもしれません。

家族を育てる ～やはり、木の根っこにこだわる～

私は子育てに積極的に関わってきました。娘二人の出産に立ち会ったことが原点でしたが、子育てを通じて、家族や地域との関わりが増えました。

対話の機会を作るために、今でも月1回欠かさず家族会議をしたり、友人とバースデーカードやクリスマスカードのやりとりをしています。たくさんのつながりを紡ぐことが、私の幸せの源、根っこなのです。

じぶん通貨という幸せのモノサシ ～それぞれの木が大切にしたいことにこだわる～

私は自分の価値基準を大切にしています。価値とは、誰かが決めるものではなく、自分で決めるものです。

私の場合は、家族、友人との時間であったり、助け合い、お手伝いの時間を大切にすることによってこだわっています。それが自分の価値基準であり、買える物のできるお金ではない「じぶん通貨」をもっているのです。

しあわせな地域の森づくりのために

ともに暮らすのが面白いと感じられる場をつくりましょう。同じだから安心という意識を卒業し、異才、異分子、異文化などを受入れることが大事です。

モノサシの使い方は、「平均の高い、低い」を見るのではなく、「広がりや散らばり」に注目してみてください。そうすると、いろんな人がいることがわかり、多様性を感じたり、見方を変えてみるができるようになり、それがしあわせな地域という森を育てるために大切です。

6 意見交換・共有

幸せのモノサシと講演の内容を振り返りながら、近くの4人から6人程度でグループになって意見交換し、全体で共有しました。

グループ1

幸せを感じる時ってどんな時なのかについて話し合ったが、普段から意識することって少ないと思う。

私は毎日3つうれしいと思ったことを、日記のように記すとよいと、大学の先生に教えてもらった。そうすると、「あれもこれも楽しい！」と感じて、幸せを感じるできるようになった。



グループ 2

高齢者と若い人では、少し幸せに対する感覚が違い、年を重ねるほど、自分の子どもや孫の幸せが、自分の幸せに繋がるような気がする。自分が本当に幸せだったと感じるのは、死ぬ直前かもしれないと感じた。



グループ 3

幸せ実感アンケートでは、地域とのつながりがある人は、幸せとの相関が強いという結果がある。「地域でこどもの笑顔を育てるまち」というのは、子どもの笑顔から、大人が笑顔をもらうことで、結果として、地域全体が幸せになることなんだと思いました。



グループ 4

幸せにつながるキーワードはコミュニティにあると考えている。昨年度から畑を使ってコミュニティ活動を行っている。農作業を通じて、顔を見て、会話をしながら、子どもを含めた地域の人と、笑顔をシェアしてきた。こういったつながりは、これまでの無理矢理参加していたコミュニティとは違った強固なつながりだと感じている。



グループ 5

子どもが幸せのキーワードということで、子どもと大人の関係性についての話になった。大人から子どもに教えるという上から目線ではなく、子どもから教えられることや、学ぶこともあるため、対等な関係性がいいなと思った。



グループ6

たかさんの話は子育ての話など、とてもタメになった。私達のグループには幸せ広め隊のメンバーがいたので、今後、この活動を広めていくために、長久手人図鑑を通じて、みなさんに知ってもらおうのがよいと思った。長久手は大学が多いので、大学生と一緒に連携して広めていくことができたらいいではないか。



7 最後に

幸せなまちにするために必要なこと、それは、小さな対話であり、今やってもらったようなことです。

地域の人達とあいさつはするけれども、実はその人のことをよく知らないということがあると思います。あいさつ程度だけで終わることなく、ぜひ対話をしてください。

対話することが、少しずつでも広がっていけば、長久手市は幸せはまちに近づいていくことでしょう。それが出来る環境が、長久手市にはあると思います。

